

第12回「新東名高速道路 神奈川県西部地下水対策検討委員会」 の開催概要について(2024年5月15日)

中日本高速道路株式会社東京支社秦野工事事務所(神奈川県秦野市、所長・伊原泰之)は、2024年5月15日に、新東名高速道路 神奈川県西部地下水対策検討委員会(委員長代行:大島洋志 一般社団法人日本応用地質学会 名誉会員)を開催しました。

今回の委員会では、完成したかん養設備の概要説明と各トンネルの坑内湧水量及び返水状況の報告を行いました。また、運用開始後に行った実証実験結果を報告し、必要なかん養能力を有することを確認しました。併せて、地下かん養される水質の分析を行い、全ての基準値を満足していることを確認しました。これらに加え、かん養設備を長期的に運用するための逆洗上頻度とその時間についても確認しました。

本委員会は、2011年に発足し、新東名高速道路の建設に際して計画路線周辺の地下水や湧水の状況を踏まえ、調査及び影響予測の方法、今後の調査計画ならびに保全対策等に関して、審議・検討を行ってきました。

発足当初は影響予測を行うための三次元シミュレーションや水理モデルの条件について審議を行い、影響予測を行いました。その後、影響対策について検討し、トンネル湧水を新たな水源ととらえ有効に利活用するため、これを返水することとしました。

具体的な返水方法については、秦野水盆近郊を通過する高取山トンネルと羽根トンネルにおけるトンネル湧水を返水することとし、高取山トンネル湧水を金目川へ放流することと、羽根トンネル湧水を葛葉川への放流及び井戸によって地下へかん養することとして整備を進め、2023年7月からかん養井戸の運用を開始しました。

今回報告した実証実験等により、保全対策は十分な返水能力を保有し、かつ今後も返水可能な設備であること、地下涵養される水質の分析により、水道水基準等各基準値を満たしていることについて確認できました。

併せて、今後は返水設備の運用で技術的検討が必要となった際には、個別に委員へ相談しながら検討を進め対応することを確認し、本委員会を終了することといたしました。